

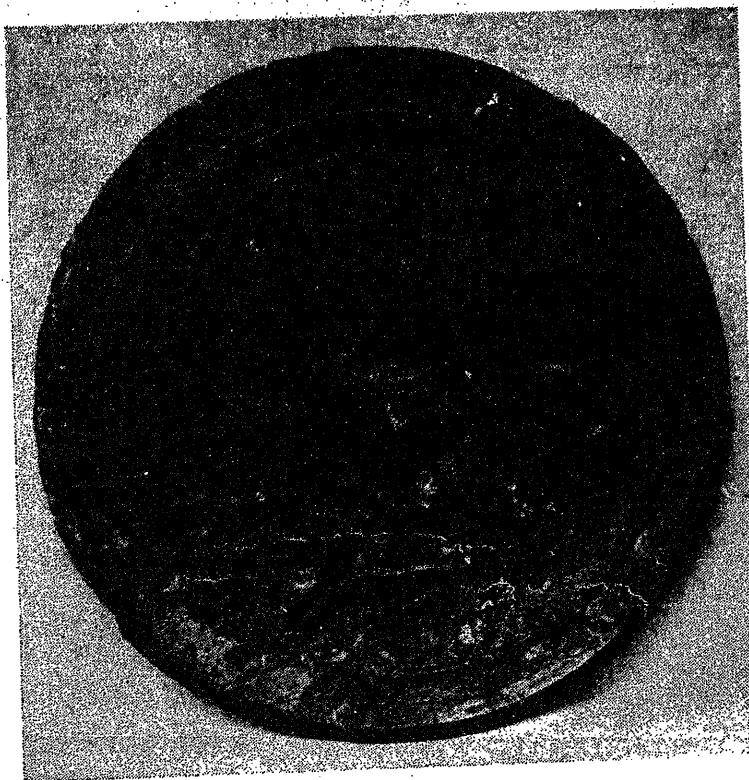
Title	吳太平二年半圓方形帶神獸鏡
Sub Title	
Author	梅原, 末治(Umehara, Sueji)
Publisher	三田史学会
Publication year	1934
Jtitle	史学 Vol.13, No.1 (1934. 4) ,p.146- 146
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白錄
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19340400-0146

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

吳太平二年半圓方形帶神獸鏡

〔漢三國六朝紀年鏡銘集錄增補(其二)〕



此の紀年鏡は因幡庵野町の安富寛兵衛氏の所蔵に係り、昨夏同地旅行の際にはじめて、其の存在を知つた新資料である。遺品は挿圖に示す様に半圓方形帶を伴ふち四神四獸鏡で、いま背面に可なり著しい蝦蔓斑の鋳を見るが、なほよく吳代に通有な形式であることを明示してゐる。外區にある銘文は左行左文で、現在読み得るものは□竟□□土看□君子承子太平二□に過ぎないが、紀年の所が幸にもはつきりとしてゐて、其の西紀二五七年の鑄造に係ることが分る。徑三寸九分、面にやゝ著しい反りがあつて、鋳のない所は鉛黒の銅色を呈し、鉢は扁平型である。安富氏は商人から因幡某所出土品として購入したと言ふてゐたが、鋳色其他からすると俄かに信じ難い。やはり近頃の支那からの舶載品であらう。こゝに鏡銘集錄増補の第二として紹介する。

(梅原)